



ルーテル学院だより

No.134
2018.4.1

発行 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

発行人 市川 一宏

学長挨拶

希望は欺かない

学長 市川 一宏



ご入学おめでとうございます。
皆さん、新入生の皆さんに希望についてお話をします。

わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです（ローマの信徒への手紙5章3節から5節）。

ローマの信徒への手紙を書いたと言われているパウロは、キリスト教の初期にあつて、キリストの教えを述べ伝え、その基礎を築いた人物です。彼は、絶えず迫害にさらされ、命の危機に直面していました。また、現在のように、飛行機や車等の交通手段がない時代にあつて、時には暑い日差しにさらされますが、遮る木々もなく、また急激に冷え込む気候の中で、パウロの移動は過酷を極めました。さらに各地での伝道は、決して成功したとは言えないと思います。しかし、彼は、希望を捨てようとはしなかった。

現代においても、言葉を失うことに、私たちはしばしば直面します。

私は、東日本大震災の発生後まもなく、被災地を訪問して、その被害の大きさに言葉を失いました。今まであったはずの家がなく、土台が見えるだけ。そこには、大切な家族、友人、そして思い出の詰まったいくつものものが

あつたはずで。それが2011年3月11日に押し寄せてきた津波によって、根こそぎ奪われていきました。かつてあつた家を見ながら、また一緒に過ごした子どもや孫が通っていた幼稚園や学校を見ながら、呆然と立ち尽くしていた皆さんの方々を私は見てきました。その後ろ姿を、私は忘れることができません。

しかし、今、たくさんの方々が支え続けています。私が計画策定やボランティアセンターのアドバイザーをさせて頂いている石巻市社会福祉協議会は、震災によって職員5名が亡くなり、家族を失った職員も15名おられました。被災後すぐに災害ボランティアセンターを立ち上げ、全国から来られるたくさんの方々のボランティアを受け入れました。その窓口には、本学を創ったルーテル教会や本学の卒業生が立ちました。また、社会福祉協議会は地域福祉コーディネーターを雇用し、日々、家族や家を失った方々が住まわれている仮設住宅を訪問し、その方々が孤立しないように皆が集まるサロンを開いたり、相談を受けたり、必要なサービスや援助につなげていきました。魚や野菜がおいしく、天候も穏やかな石巻ですが、冬の寒さは非常に厳しい。道路の雪が固まり、氷となる上を移動して訪問する。私も何度も経験しています。風が強く、体温が奪われ、凍えるような日もあります。しかし、そのような日でも、仮設住宅や新たに建てられた（復興）住宅を訪問し続ける。そして、社会福祉協議会や地域福祉コーディネーターの働き、民生委員児童委員、ボランティア、町会等のコミュニティ

ティを再建しようとする地道な歩みが、被災者の方々を今も支えている。私は、明日を目指して、被災地で生まれた「希望の働き」と共に歩みたい。

しかし、すべての希望がかなえられるわけではありません。「希望はわたしたちを欺くことはありません」と聖書に書かれていますが、希望通りにいかないことは、たくさんあります。ふりかえって、私は、被災地の方々と歩む過程で、こう思いました。見通せない将来に向かって進むこと、すなわち今の生き方によって過去の事実は変わりません。しかし、今の生き方によって、過去の意味が変わってくる。今の生き方を通して、過去の意味を変えていく可能性があることを。

平昌オリンピックで、日本は13個のメダルをとりました。羽生結弦さんは、フィギュアスケートで世界の頂点に立ちました。彼は、王者になったのです。しかし、頂点を目指す選手は、日本だけでも数千人いたと言われています。世界の競技人口を加えると何万人もの方々がフィギュアスケート界の基礎を築いています。

では、勝者は1人ですが、その他の人は、敗者なのではないでしょうか。すべての人が、フィギュアに対する希望を失ったのでしょうか。私は、違うと思います。オリンピックを目指した人それぞれには、新たな希望がある。

それぞれに希望と夢をもって、この学生生活をスタートさせて頂きたい。希望は欺かない。そして、それぞれの心に、神様の豊かな愛が注がれることを祈ります。その事実を大切に私たち教職員は皆さんとともに歩みたい。

新入生へのメッセージ「ルーテル学院大学へようこそ」

大学院生

臨床心理学専攻修士課程2年
ルーテル学院大学卒

一柳 和生



学生会会長

臨床心理学コース4年
岡山学芸館高等学校出身

古澤 侑馬



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私は本校の学生自治組織である、学生会会長の古澤侑馬です。皆さんとルーテルで一緒に学べることをとても嬉しく思います。さて、ご入学された皆さんには新たな生活が待っています。これまでみなさんが過ごしていた時間の多くが大学で過ごす時間になります。ですから大学生活が味気ないものになると生活の大部分もそうなるかもしれません。

大学にはさまざまなコミュニティがあります。サークル、愛（学）園祭、実行委員、礼拝委員会、そして私の所属する学生会執行部などがあります。これらの団体に加わる事がおつくだと思う人も少なくないでしょう。しかし、やり始める前から楽しいことはそう多くありません。実際に加わってみてから楽しいと思える機会がたくさんあります。サークルや委員会のほかにもやりがいを感じられることが大学生活の中にはたくさん転がっています。何かとの、誰かとの関わりを持つことで素敵な機会に出会うことができます。大学での学びは学問だけではなくありません。自分自身の中にずっと生き続けるものを手に入れる人も少なくないでしょう。是非、いろいろなことに挑戦する中で皆さん自身が成長して、そして楽しんでください。ただ、無理だけはいないようにしてくださいね。応援しています。

ルーテル学院大学の大学生、大学院生になられた皆さん、ご入学おめでとうございます。これから新しい生活が始まって戸惑うことや疲れを感じることもあると思いますが、まずは大学や大学院それぞれの学生生活を楽しんで過ごしてほしいと思います。

さて、皆さんは大学生や大学院生となり自分の興味や関心を追求することのできる場所にやってきました。これから多くの体験や学びの機会があると思います。大学では授業や授業以外の活動の多くを自分で決めていきますが、これは自由度の高いことです。決定が自由であることで、やりたいことができる選択肢は増えますが、もしかするとこの学校で自分が何をしたいのか分からなくなってくることもあるかもしれません。そのため、これからの学びの中で重要になっていくことは、どうやって自分の目的に近づいていくかを考え、自分にできる行動をしていくことだと思います。

自分のやりたいことに迷ったときには考えるだけでなく、何か行動をしてみるのも良い手です。自分の目指すものが何かを考え、行動することは迷いを乗り越える力になります。さらにルーテルは少人数の大学であるので、夢に向かって頑張る姿を多くの先輩や同級生、先生方は見ていますし、きつと力になってくれます。これから多くの人と関わりながらたくさんの挑戦をして、皆さんの学生生活が楽しく充実したものになることを祈っています。

オープンキャンパスのご案内

4月22日（日）

12:30 受付
13:00 大学紹介
13:30 キャンパスツアー
14:00 模擬講義
「地域の困りごとと解消法：新たな地域福祉実践を開発しよう」
15:00 模擬講義
「付き合い上手になるためのカウンセリング入門」
16:00 AO入試深掘り説明会



5月26日（土）

12:30 受付
13:00 大学紹介
13:20 卒業生スピーチ
13:40 キャンパスツアー
14:00 模擬講義
「キリスト教と日本文化 茶道と雅楽」
15:00 模擬講義
「臨床心理学への招待」
16:00 入試説明会



個別相談、在学生による相談は14時～随時行っています。

オープンキャンパスのご予約・お問い合わせ 企画広報センター 0422-32-2949 までお気軽にお問い合わせください。 メールでのお問い合わせ koho@luther.ac.jp

4月～6月 行事予定

4月3日	入学式
4月6日	新入生オリエンテーションフォーラム
4月10日	授業開始
4月11日	学長・校長・チャプレン就任式
4月18日	親睦会
4月22日	受験生対象 オープンキャンパス
5月9日	クヌーテン講演会
5月中旬	社会福祉実習開始
5月26日	受験生対象 オープンキャンパス
6月6日	学生総会
6月10日	受験生対象 オープンキャンパス
6月30日	保護者の皆さまを対象 オープンキャンパス ホームカミングデー 在学生保護者会

入学前スクーリング

専任講師 浅野 貴博



本学では、高大接続の一環として、AO入試や推薦入試等の早期の合格者の方々を対象に、勉学に対するモチベーションの維持や入学後の学習、大学生活へのスムーズな移行をサポートすることを目的に「入学前スクーリング」を実施しています。2018年度入学者に対しては、11月・12月・2月の計3回に渡って実施しました。毎回事前に出された小論文の課題に取り組んでもらい、スクーリングで解説を行った上で、提出された課題を添削し、本人に返却します。スクーリングでは、小論文を書くにあたっての基本的な事柄（形式など）を説明しながら、課題文の主旨をきちんと理解した上で、どのように自らの考えを論理的にまとめるかを中心に説明します。こうした技術は、大学で課されるレポートを書く上では必須のことですので、しっかりと身に付けて欲しいところです。

説明、図書館や学生相談室の紹介の後、在学生の協力のもと、合格者の皆さん同士の交流の機会を持ちました。この集いを通して、合格者の皆さんが本学をより身近に感じ、4月からの新生活に向けての第一歩となれば幸いです。

入学前スクーリング参加者の感想

（一部抜粋）

- ・講義を通じて文章の校正の仕方を学びました。
- ・はじめは小論文の書き方もわからなかったのですが、講義を通して理解できるようになりました。
- ・課題があることにより、旬のニュースに関心を持てるようになりました。
- ・これからどういったことを学べば良いか参考になりました。
- ・入学後のレポートの書き方の参考になりました。
- ・課題ひとつひとつが深く考えさせられるテーマでした。
- ・社会に対して視野を広げることができました。
- ・課題の文章を通じて、自分の考えやその課題に対しての自分の気持ちを文章に示すことができました。
- ・学びの楽しさを知ることができました。

1回目のスクーリングは「愛祭」(学園祭)の開催中であり、参加者には一足早く大学生活の雰囲気味わってもらい、2回目は、オープンキャンパスの日程に合わせたため、参加者はスクーリングと併せて模擬講義も受講しました。また、3回目は、スクーリングの後に「合格者の集い」を開きました。「合格者の集い」には、合格者に加えて保護者の方々にもご参加頂き(計79名)、教職員による本学各部署の



第51回ルーテル学院卒業式

学生支援センター長 村上 秀紀

第51回ルーテル学院大学、第16回ルーテル学院大学院、第89回日本ルーテル神学校の卒業式が3月9日に本学チャペルにて執り行われました。

賛美の中、卒業生が入場し石居校長による説教「最も小さい者の一人に」祈られ、卒業証書・学位記授与が行われました。卒業生ひとり一人が名前を呼ばれ、聖壇に進み、学部生・大学院生は金子学長代行より、神学校生は石居校長よりお祝いの言葉とともに証書が授与されました。今回は人間福祉心理学の1期生69名を含む学部生75名、大学院生15名、神学校生4名の計94名が卒業されました。



フィリピン研修を実施して

教授 原島 博

2018年2月21日から3月4日にかけてフィリピン研修を実施しました。福祉心理領域の1、2年次5名の学生が貧困、子ども、家族、地域、文化をテーマに体験学習をしました。ギマラス島ブエナビスタ町における子どもの権利を促進する村の若者の活動、母親グループによる所得向上を目的とする協同組合活動、バギオ市におけるチャイルド・アンド・ファミリー・サービスによる非行少年の生活スキルと職業訓練プログラム、



視覚障がい児童の寄宿舎学校での地域統合訓練プログラム、そして、北部イフガオ州ラガウエの先住民族の

第21回 ジョイントコンサート報告

子ども支援コース4年 前田 霞 (聖歌隊 都立石神井高等学校出身)



2月24日(土)、日本福音ルーテル東京教会を会場に、ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校聖歌隊とハンドベルクワイア「ラウス・アンジェリカ」の



ジョイントコンサートが行われました。昨年は宗教改革500年、ジョイント20回を記念するコンサートでしたが、本年度はその歩みを受け継ぎ、新たな一歩を踏み出したコンサートでした。



今回のテーマは「つながり」です。2017年度は私たちにとって「つながり」をたくさん感じる一年となりました。特に11月には、国際基督教大学にて日本福音ルーテル教会と日本ルーテル教団の宗教改革合同礼拝が行われ、宗派を超えたつながり、また共

コミュニティにおける伝統文化の継承活動、地域教会による先住民族のコーヒ、砂糖生産支援活動などを視察しました。また3日間のホームステイや地元の若者との交流を通じて、日本の家族や地域のあり方、そして自分自身について振り返ることができました。

- 以下、参加者5名のひとこと感想です。私が一番印象に残ったのは農村と都市の格差についてです。バランガイでホームステイを経験した後にマニラに行くとなんか同じ国なのかと思ってしまう。更に経済的格差の他にバリアフリーとは何かを考えました。(1年吉野)
- いかに自分たちの生活が物に頼っているか、また様々な状況にある人たちの話を聞いたことで自分が持っていた価値観を大きく変えることとなった12日間でした。(1年川端)
- 行く前も現地でも常に不安でしたが、帰ってくる時には、この研修で見た



コミュニティ・リーダーの若者たちと交流や地域の施設の方々からお話を聞く中で、日本とは違う制度や支援体制があることを知り、改めて日本の福祉について考えることができました。(2年川崎)

藤井英一先生 退任のご挨拶



最終講義 (2018.2.18)

私は、今年3月末日をもってルーテル学院大学を退職します。定年より3年早いですが、第一に健康の回復のため、第二には深海魚類の研究、それから秋田の里山の環境保全と文化継承のNPO活動のために十分な時間を確保するためです。

ルーテルとの縁は1971年、私が東海大学海洋学部2年生の時、ルーテルの上野輝弥教授から魚類分類学の指導を受けたことから始まります。卒業論文も上野研究室で、その後の水産庁海洋調査航海での採集標本もルーテ

ルの施設をお借りして研究しました。1986年4月に日本ルーテル神学大学院神学部の専任講師となつて32年です。当初の担当科目は生物学概論、海洋生物学、コンピュータ特講でした。三浦半島海浜キャンプ実習やMacを囲んで学生とPCの将来を語り合った特講など良い思い出です。その後、生命・生態・進化、海と森の生物、自然科学の視点、コンピュータ入門、情報言語コミュニケーション、コミュニケーションの演習、コミュニケーションの理論、総合人間学と担当科目が増え、環境問題や人間の進化のこと、さらに将来の夢などをいろいろ語り合いました。たくさん卒業生や在学生の顔が浮かびます。これまでの楽しかったルーテル体験に感謝し、退任の挨拶とします。